

オリーブ（モクセイ科）の育て方

今回配布したオリーブはチプレッシーノ（イタリア原産）という品種です。果実は小さめで、肉厚な黒色の実をつけます。オリーブとしての風味は非常に良く、特にオイル生産用に育てられています。

■植付け

オリーブは酸性土壌を嫌います。

庭に植える際は弱アルカリ性になるように、前もって石灰を加えて中和しておきます。

鉢植えの場合はオリーブ専用の用土を使用するか、川砂⑤：蛎殻石灰①：バーミキュライト①：腐葉土①：赤玉小粒②の割合（NHK 趣味の園芸から）で植え込んでください。鉢は根鉢より2回り大きいものを選ぶとよいでしょう。

■管理

一日中日の当たる場所を好みます。

非常に成長が早く、剪定しないで放任すると木が大きくなります。剪定して高さを2.5m程度に仕立てるのがよいでしょう。ある程度寒さに当てないと花が付きません。冬も戸外で管理します。

■水やりと肥料

オリーブは比較的乾燥状態を好みます。水が多すぎると生育が阻害されます。ただし、極端に乾燥すると成長が止まりますので、注意してください。

肥料は成長期に施します。窒素(N)、リン酸(P)、カリウム(K)がバランス良く含まれているものを選びます。花が咲く時期は液肥の使用も可能です。

■剪定

オリーブはとても成長が早く、枝葉を活発に伸ばす植物です。樹高がどんどん高くなって管理や実の収穫が困難になります。枝葉が密集して必要な日光や風が内部にまで届かず、木の健康が損なわれてしまうので、剪定が必要です。

毎年、形を整える「弱剪定」と、太い枝を切る「強剪定」のどちらも、根が休眠している2月頃に行ってください。

オリーブはその年の春から初夏に伸びた新梢に翌年、花を咲かせて実をつけます。実をならせたい場合は、前年に伸びた枝の先は残すようにします。枝は丸く刈込むのではなく、透かすように切ってください。

■特徴

基本的にオリーブは1本だけでは受粉しません。近くにオリーブが植わっていなければ、品種が異なる2本以上の木を一緒に育ててください。

■病気

“炭疽病”（7月～11月）や、アブラムシやカイガラムシが原因の“すす病”が発生することがあります。

■害虫

ハマキムシが枝先の新芽につくことがあります。オリーブアナアキゾウムシやコガネムシの害もみられます。オリーブフライやオリーブノドグロヨコバイがつくこともあります。

中野区花と緑の祭典実行委員会